



## 穂高通信工業 (安曇野市)

業績が回復した今こそ、将来を見据えた準備を

スマートメーターやプリンター向け部品の製造などにより業績を伸ばしている穂高通信工業(株)は、将来を見据え新たな事業の柱を構築する一方、組織の強化を推し進めようとしている。

### 海外シフトの進行により逆境に直面

東京で創業し、戦後穂高町(現安曇野市)に長野工場を開設した穂高通信工業。当初は自社ブランドの船舶用無線通信機製造を主力に業容を拡大、高度成長の波にも乗り、1960年代後半には従業員が約600人まで増加し、地元を代表する工場のひとつに数えられたという。その後、主力事業はOA機器向け部品へと変化したが、2000年頃まではほぼ順調な経営を続けていた。

しかし、得意先企業の海外生産シフトが広がるに連れ受注環境が悪化。さらに、リーマン・ショック後の世界経済の落ち込みにより、2009年～2014年半ばには「創業以来、最も厳しい時期」を経験する。受注確保にも苦労した時代のまっただ中、2013年に本社所在地を東京都から安曇野市へ移すとともに、3代目の社長に就任したのが矢田竜也氏だった。ここから、穂高通信工業復活に向けた反転攻勢がスタートすることになる。

### 以前の実績が新たな受注のきっかけに

当初はなかなか成果が上がらなかったが、60年以上取引のある大手メーカーから声がかかった。先代の頃、要請に応じ高い技術が求められる重要部品を短期間で提供して感謝されたことがあったメーカーが、当時の恩返しの意味も込め取引を打診、それが今日の主力事業に成長したスマート

メーター向け部品の受注に結びついていった。「ビジネスとはいえ基本は人間関係。人対人、心対心の大切さを学んだ」と振り返る矢田社長は、すべての取引先と上辺だけのつき合いでなく、信頼関係を築き、共存共栄することを今でも基本方針に掲げている。

近年、受注は増加基調をたどり、年売上高は2014年12月期約4億8300万円、2015年同期約7億8900万円、2016年同期約10億5300万円と右肩上がり推移。精密プレス加工、板金加工を中心に、金型設計、溶接加工、カシメ加工、組立、塗装、検査工程などを一貫して手がけ、試作から量産まで対応しているが、昨年ファイバーレーザー複合機を導入したことで、これまで以上に付加価値の高い加工も可能となった。

### 新事業構築を目指し合弁会社を設立

本社工場を含め広大な土地を所有しているが、その広さは東京ドーム4つ分に相当。この広さを活用し、メーカーの倉庫機能を果たしながら、ジャストインタイムで納入できる点も強みである。

V字回復した業績。矢田社長は、経営が安定した今こそ、必要な人材育成や設備投資を行って組織の強化を推し進めていきたいと考えている。新たな事業の柱の構築に向けて動き始めた。「景気に左右されない」「国内インフラを担う」「地産地消(国内でつくり国内で使う)」がキーワード。今月、参画する4社がそれぞれの得意分野を活かす形で電材関係の製造販売に携わる合弁会社をスタートさせたのはその第一歩でもある。



穂高通信工業本社工場

#### 【穂高通信工業株式会社】

企業コード：985752208 資本金2500万円、1916年8月設立、安曇野市穂高8412、代表取締役社長矢田竜也氏、従業員69名(パート労働者含む)。2016年12月期の年売上高は約10億5300万円。